

経済界と農業界の連携強化を進める「重点戦略テーマ一覧」

～農と食の「サプライチェーン」の「バリューチェーン」化に向けて～

資材調達

栽培・収穫

輸送・流通

加工

販売・消費・輸出

分科会
テーマ

(コンセプト)

生産イノベーション 分科会

(新技術開発や規制緩和によるコスト等の低減、ICT活用による生産性向上、労働力の確保など)

物流・加工イノベーション 分科会

(配送の効率化、物流技術・施設の高度化、6次化、機能性向上に係る技術開発、規格外品の利用など)

国産農畜産物需要拡大 分科会

(輸出・地産地消の拡大、日本型食生活の拡大など)

分野別
具体例

建設コスト低減

- 低コストハウスの開発、規格統一化、規制緩和による建設コスト低減

エネルギーコスト低減 (循環型農業の拡大)

- 「熱+電力+CO2」の3資源利用型の農業版トリジェネレーションによる省エネ推進など、新技術や効率的生産によるコスト低減

資材コスト低減

- 農薬の登録要件緩和、海外に倣った飼料表示の是正など規制見直しによるコスト低減
- 国際的な資材原料調達力などの向上によるコスト低減に向けた関連業者の提携拡大

企業ノウハウ活用型の農業生産法人の育成

- 規制にとらわれず、地域の懸念のない形で、効率的に企業ノウハウ・資金力を活かすため、企業・JA双方が出資する農業生産法人の設立を促進

農業者の経営力の強化

- 販売と結び付いた形で、上記した資材・技術等を活用拡大するための農業経営指導手法と支援体制の確立

生産工程の標準化

- 集約化された園芸団地によるコスト削減と標準・効率化

生産現場のICT活用

- 経験と勘からの脱却を図り、生産性の更なる向上を実現する、手軽なデータ農業の構築

労力の確保・安定供給

- 規模拡大に向け、不足する労力の確保をはかるため、農業界・経済界で期間労働力投入をマッチング・人材育成

農地の有効活用

- 鳥獣被害対策に関する新技術導入による遊休農地の発生防止など

物流の効率化等

- 両業界での混載の促進や、ICT活用などによる効率的配送基盤づくりを進め、物流コストを低減
- インフラ、制度を含めた、国際競争力のある物流の構築
- 輸出用物流の確立

物流拠点の共有化

- 農業界と経済界がそれぞれ保有する物流拠点を共有化し、効率化

廃棄ロスの削減と、高品質保持流通の拡充

- 高機能包装資材の開発やコールドチェーンの徹底化により、廃棄ロスの削減、高品質保持流通の確立
- 通いコンテナの活用による包装資材コスト低減

食品機能性を活かした活用分野の開拓

- 食品機能性成分の新たな応用技術の共同開発
- 食品機能性を活かした加工品開発
(例:薬品、化粧品、サプリ等)

規格外良品の商品化

- 全生産量の3～4割で廃棄されがちな規格外品を輸入品対抗商品と位置付け流通拡大

加工品における国産の活用拡大(6次化の推進)

- 両業界で協議会創設等により、特定品目の需要拡大に向けた取り組みを強力に展開
- 国産農畜産物の活用拡大に向けたマッチングや経営サポート等の共同の取り組みを構築、強化
- 乾物や濃縮エキスなど、高付加価値食品加工の開発とその簡便な加工方式の確立

日本型食生活の回帰・拡大

- 和食の無形文化遺産登録を活用した国産農畜産物の需要開拓と、食文化の継承・創造のための運動を展開
- 東京オリンピック等において、外国人向けに、国産農畜産物を活用した食を戦略的にPR
- 大都市の近郊に、食農理解促進と先端技術実験の拠点を設置
- 企業研修等での遊休農地の活用促進

輸出拡大に向けた環境整備

- 集中的に改善すべき「検疫・衛生基準」「国内手続き」などを共同研究・提言し、輸出拡大の環境整備を加速化
- 海外需要に対応した加工品等の開発、物流技術の開発、加工・物流施設の整備促進、販路の確保など、戦略的な輸出体制を構築

地産地消の拡大

- スーパー、コンビニ、地域の事業所等における地元食材の活用を拡大

国産消費拡大運動の展開

- 消費者が国産を選択できるよう原産国表示の実施に向けた環境整備を促進
- 国産農畜産物等の消費拡大

「活力ある農業・地域づくり連携強化プラン」の重点戦略テーマ具体例<提携プロジェクトのイメージ>

生産イノベーション 分科会

物流・加工イノベーション 分科会

国産農畜産物需要拡大 分科会



加工・業務用需要向け中心の大規模園芸産地を基点としたバリューチェーン

【目的】生産効率化・標準化、高付加価値化を伴う高効率な国産加工原料産地を構築

【内容】経済界の持つICT活用や各種ノウハウの投入により、生産工程の標準化や農作業効率化を図り、輸入加工原料などを国産に置き換える「バリューチェーン組込型大規模園芸団地*」を開発する。

*施設や露地を合わせた野菜等の大型産地

【農業界のメリット】生産基盤拡大
高効率生産ノウハウ

【地域のメリット】雇用機会創出
農業基盤維持・拡大

【経済界のメリット】加工原料の国産化・安定確保
大規模生産ノウハウ



【目的】輸送コスト削減+ロングライフ化+付加価値化した魅力ある加工食品を創造

【内容】乾燥等により容積や重量を軽減させ、長期輸送を可能とし、「干し野菜」のように乾燥によりうまみ成分があげ、輸出も視野に入れた付加価値化を伴う加工品を開発する。

【農業界のメリット】輸出競争力強化
販売量増加

【地域のメリット】加工施設誘致
雇用増加

【企業のメリット】商機拡大(機械等)

付加価値加工3手法



乾燥



粉末



濃縮エキス

【目的】経済界・農業界の共同運動の展開による国産青果物の消費拡大の実現

【内容】これまで農業界と経済界は、別々に消費拡大に取り組んできたが、共同の産地育成や農畜産物の加工とあわせて、消費拡大も一体となり強力な運動を展開し、国内の青果物マーケットの拡大を図る。

そのなかで、消費者が国産を選択できるよう、原料原産地表示の環境条件を整備する。

【農業界のメリット】生産拡大
競争力強化

【地域のメリット】安全安心で良質な食生活の実現

【経済界のメリット】効果の高い需要開拓・拡大の展開

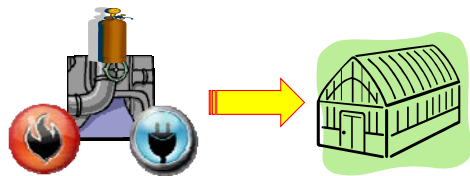


トマトは、我が国の主要作物。しかし、生鮮消費が主流のため、韓国など諸外国と比べ、消費量が大幅に少ない。…拡大余地がある!?

農業版トリジェネレーション

【目的】小規模施設園芸における資源最大活用、エネルギーコスト低減と生産性向上を達成する再整備

【内容】「熱+電力+CO2」の3資源利用型の農業版トリジェネレーションを、大規模施設ではなく、既存のハウス園芸農家向けに、エネルギー転換効率の良い発電・加温・CO2発生ボイラーを設計するとともに、安全性と高生産性(断熱・気密性確保・冷却効率など)を実現。



【農業界のメリット】生産コスト低減
競争力強化

【地域のメリット】既存施設の再利用
再生可能電力確保

【経済界のメリット】加工原料の国産化・安定確保
商機拡大(機械等)

新たなエコ物流



【目的】物流合理化を研究し、コストとロス率を低減

【内容】ICT等を活用した適切な配車整備など効率的物流手段により農業界、経済界での商品混載や、拠点効率化および、長期流通に耐える包装資材の開発やコールドチェーンの徹底、通いコンテナの有効活用による包装資材コストの低減を目指す。

イメージ



【農業界のメリット】物流効率化
物流コストダウン

【地域のメリット】物流コスト低減
商圏拡大

【経済界のメリット】高効率バリューチェーン
物流コストダウン

輸出拡大



【目的】生鮮農畜産物および海外需要に対応した加工品の輸出拡大

【内容】輸出促進の前提となる検疫・衛生基準等の緩和、国内手続きの迅速化等の条件整備の加速化をはかる。同時に、海外需要に対応した農畜産物加工品等を開発、長期物流を可能とする貯蔵技術や包装資材の開発、販路の確保など戦略的輸出拡大に向けた体制整備を進める。

【農業界のメリット】生鮮品輸出促進
加工品輸出促進

【地域のメリット】農業基盤維持・拡大
新規物流技術導入

【経済界のメリット】新規需要開拓
商機拡大(加工品)

